事業者と支援機関が手を携えて取り組む計画づくり
経営危機を乗り越え、未来を描く従業員承継（宮崎県串間市）



（中央）やきとり一尺
代表 清水 耕作 氏

福岡県で貿易業などの事業に携わったのち、2000年に故郷・串間市にUターン。備長炭で焼く串焼きをはじめ、家庭的なメニューが楽しめる「やきとり一尺」を開業。創業26年を迎える。

（左）後継者
従業員 上田 富貴 氏

実家は、串間市で人気だった飲食店（現在は閉店）。ホテルニューオータニ東京本店での調理経験もあり、「やきとり一尺」では技術とアイデアをいかして、メニュー開発等を行うほか、SNS活用による広報にも注力している。一児の母。

（右）串間商工会議所
所長 清水 裕一郎 氏

2007年に入所。約560の会員事業所に対し、補助金活用から確定申告手続きまで幅広く支援実務を経験。2015年からは事業承継支援にも関わり、セミナー企画・開催等を通じた会員の意識啓発など積極的に支援に取り組んでいる。

補助金の声かけから事業承継支援へ

宮崎県串間市で20年以上愛されてきた「やきとり一尺」。代表の清水（しみず）耕作氏が後継者候補である従業員の上田富貴氏とともに、事業承継を意識しはじめたのは、新型コロナウイルスの感染拡大があった3年前。来店客激減の影響で経営危機に瀕し、店を閉めようかという瀬戸際で、串間商工会議所の清水（きよみず）裕一郎所長から「持続化補助金」の案内をもらい、同時に事業承継支援の提案を受けたことが具体的な事業承継の第一歩となった。

「以前からお店を利用したり、一尺さんのSNSを見ていたんです。その流れからお店の経営が悪化している状況を知り、テイクアウト導入等による新たな売上確保策を提案するため清水代表を訪ねました」と、清水所長は当時を振り返る。

実践的なアプローチに富む 中小機構の個別助言事業


清水代表（左）と後継者の上田氏（右）

補助金の情報とともに清水所長から紹介されたのが、中小機構の事業承継支援策である専門家派遣制度「個別助言事業」だった。清水所長が以前からつながりのあった中小機構の専門家に相談したところ、個別助言事業を活用した承継計画作成支援の提案を受け、計画づくりが本格化した。清水所長は「個別助言事業は、事業者の課題を見える化し、強みを伸ばし、課題を解消する具体的な方向性を示すツールとして不可欠でした。商工会議所としても、中小機構の支援メニューが当該事業者に合っていると感じたんです。私たちだけでは解決できない課題を専門家を通じて解決できるというメリットがありました」と話す。



甘薯（かんしょ）を使った「串間焼」やブリしゃぶなど串間の特産物で独自メニューを開発

専門家との対話を通じて、「やきとり一尺」の清水代表は「中小機構の専門家の方から、串1本の原価計算から消費税の扱い、道の駅やインターネットを活用した販路拡大まで提案していただいた。具体的な助言があったことで不安解消につながりました」と振り返る。経営の経験不足もあり事業を引き継ぐことに不安を感じていた上田氏もまた、「SNSを活用した顧客獲得やメニューのオリジナリティなどが高く評価されたことで、お店の良さやこれまでの取組の再確認ができ、事業を引き継ぐことに対する自信がわいてきました。新しいメニューも積極的に増やしていきたい」と笑顔を見せる。洞察力をいかした専門家による具体的で実践的なアドバイスが、二人の背中を押したという。

承継だけでなく、ともに「成長できる事業」をつくる

専門家からの助言を受けて作成した事業承継計画のなかで、二人は新店舗と工場の設立という事業拡大の具体的な構想を描いている。上田氏の出産・育児の事情により当該計画の実行は一時見合わせているものの、将来的に現在の貸店舗から移転し、加工品製造・販売のため衛生管理の行き届いた工場を併設することで、卸売や真空パック製品の全国発送といった新たな販路開拓を見込んでいる。事業承継を機に売上を現在の2倍、3倍へと伸ばすことをめざす。

清水代表は「将来的に、店舗を彼女に引き継ぐときには、飲食店としての経営だけでなく、事業として大きく成長できるように事業承継に向けた準備を進めていきたい」と力強く語り、上田氏と承継後のビジョンを共有する。

「待ち」でなく「能動的」に伴走する

串間商工会議所の清水所長は、個別助言事業の提案当初からこれまで専門家との事業承継計画書策定会議に必ず同席してきた。同席を続ける中で、事業者と関わってきたことで深まった関係性の大切さを改めて実感し、最後まで責任を持って支援したいという気持ちがより一層強まったという。この経験から、支援機関ができることとして、「待ち」ではなく「能動的」に事業者と対話し、本音を聞き出す機会を増やすことの重要性を語る。


清水所長(左)と清水代表(右)

事業者にとって中小機構の専門家は初対面であり、個別助言事業による支援の中だけでは伝えきれないこと・言いにくいこともある。日頃関わっている商工会議所の職員が支援の場に同席することで事業者に心理的な安心感を提供し、事業者と専門家の橋渡しの役割を担ったことが事業承継計画書の精度を高めることに繋がったという。「支援の精度を高めるだけでなく、私たち自身も、専門家のアプローチやアドバイス内容を学び、ノウハウを蓄積することで、支援がスムーズにできるようになったのではないかと実感しています」と清水所長は述べる。

「やきとり一尺」の事業承継計画書策定後、清水所長は着実な事業承継までしっかりと見守りサポートしていく予定だ。また、他の地域の商工会議所との情報交換を通じて、会員との距離の縮め方や支援の質向上にも努めている。「気軽に相談できる商工会議所であり続けたい」という思いと行動力は、中小機構との連携、事業者との地道な関係構築と積極支援を結実させ、さらには地域経済を活気づける鍵となるだろう。

(取材・編集:2026年1月26日)



支援機関概要

串間商工会議所
所在地:宮崎県串間市西方5657
職員数:8名



やきとり一尺

所在地:宮崎県串間市旭通り
業態:飲食業(居酒屋)

Be a Great Small. 中小機構
独立行政法人中小企業基盤整備機構
九州本部　地域・連携推進課
TEL:092-260-1355

継ぐモノ 九州における事業承継
事業を引き渡した経営者、先代から事業を受け継いだ後継者、事業の引き継ぎをサポートした支援機関、様々な"継ぐモノ"の皆様の声や想いを紹介しています。

中小機構 事業承継 ポータルサイトはこちら▲